



広報ゼミ

～広報ゼミについて～

0号7月14日



私たち広報ゼミは、「標茶町の新しい魅力を発見したい」、「標茶町民でも知らない標茶町のことを発信することであたらしい発見を与えたい」と考え、広報ゼミを立ち上げました！

今後は、標茶町のサービス業や観光業の方にインタビューをして標茶の魅力を高校生の視点で記事を書き、校内掲示だけでなく広報しべちゃ、SNS 等でも発信していくことを活動の目標としています！

今回は、昔の標茶の生活を知ることを目的として阿歴内にお住いの大和田文夫さんにお話を伺いました。

## 第1号インタビューー、標茶の歴史を学ぶ！！

現在99歳の大和田文夫さんは、大正10年2月10日に福島県に生まれました。8歳の時に開拓使として家族で標茶町の阿歴内に移り住んだそうです。

※開拓使とは、北海道、北方領土開発の第一線の国の組織です。

開拓使について尋ねると、「子どものころは、毎日小学校が終わったらすぐに家に帰り、開拓使の仕事を手伝っていました。仕事は、道路・鉄道の整備、鉱山の開発など肉体労働が多く、とても大変でした。」とおっしゃっていました。昔の暮らしについても伺うと「家は山の中にあつたので電気がなく、食べ物も山の中で自給自足していました。また、昔の標茶は、交通の便が悪く、移動にとっても時間がかかって本当に大変でした。」とおっしゃっていて、開拓使の方々のおかげで、今の不自由ない生活ができていることがわかりました。また、現在の標茶町が出来上がった過程の様子や苦労したことを実際に聞いたことで標茶の歴史に興味がわき、とても充実した時間となりました！



大和田文夫さん

ーインタビューを終えてー

今回インタビューをさせていただき、今まで知ることのできなかつた昔の標茶の様子や状況についてよく知ることができ、どのようにして今の標茶町ができたのかがわかりました！また、インタビューの難しさについても感じることができました。私たちの初めての活動にご協力いただいた大和田さん、ありがとうございました。

今後も、インタビューした記事を校内や標茶町の公共施設に掲示したり、広報しべちゃに折り込んだりしてもらおうのでぜひ見てください！！



SHIBE.KOUHOU

Instagram



twitter